



## 私の一冊

田林 明

### 「持続的農村システムの地域的条件」

田林 明・菊地俊夫著（農林統計協会）

〔中央 611.92-Ta11〕



農業は作物や家畜などの生物を扱うので、他の経済活動よりも大きく自然環境に左右される。それだけに化学肥料や農薬，農業機械などを用いた効率的で生産性の高い農業を目指せば，環境の質の低下や環境破壊を引き起こすことになる。いかに環境を悪化させないで農業生産を維持し，しかも農民が経済的に，社会的・文化的に高い水準の生活を維持し，農村の活力を保っていくかが，日本を含む先進工業国の大きな課題である。江戸時代のように環境に与える人間活動の負荷を小さくしておくということだけではなく，近代科学によってかなり高度の生産性と収益性をあげ，同時

に高い生活水準を実現しようという，いわば虫のよい状況が持続的農村である。

このような持続的農村に関する研究は，農学や社会学，経済学，文化人類学，生態学，地理学など様々な分野において1980年代末から盛んになるが，われわれは1993年に組織された国際地理学連合持続的農村システム研究グループの活動に大きな刺激を受けた。このグループの第3回国際シンポジウムが1995年8月に筑波大学で開催され，これを契機にわれわれも農村の再生を目指して本格的な調査・研究を始めた。日本においては大都市近郊農村における女性農業者グループの活躍，大都市圏内の稲作農村における伝統的村落組織の再評価，直販に依存する果樹農村の活力，山村における高齢者の農業維持のための役割，遠隔地の稲作農村や軽種馬農村の景観と経済活動，社会的・文化的活動などの調査を行った。また，カナダの南オンタリオの混合農業やニュージーランドの土地利用パターンの変化についても検討した。これらを通してそれぞれの場所の条件がどのように生かされ，環境の質が維持され，活力のある農村がつくられているかといった実態を明らかにし，持続的農村を実現するための条件を探ろうとしたのが本書である。

（たばやし・あきら 地球科学系教授）

